

教科教育のなかで行われる「図書館利用指導」の状況Ⅱ －教師用指導書の記述を手がかりとした分析－

庭井 史絵^{*1}

＜概要＞ 学校図書館利用指導で扱う「情報の収集・選択・分析・処理・表現」に関する項目が、中学校の検定教科書に基づく教師用指導書でどのように取り上げられているかを分析し、教科の中で利用指導を行う可能性と意義について検討する。指導書に見られる記述を利用指導と比較した結果、両者の指導内容に共通点と相違点があることが確認できた。このことから、利用指導を教育課程に位置付けることによって教育効果を高める可能性があるという結論が導かれた。

＜キーワード＞ 学校図書館、図書館利用指導、情報リテラシー、教科書、チーム・ティーチング

1. 研究の目的

図書館利用指導 (library instruction, 以下「利用指導」) とは, “図書館を含むさまざまな情報 (源) の効果的利用に必要な知識や技能 (情報リテラシー) の習得を目指す種々の活動”¹⁾を指し, 学校においてそれを行う場合, 単なる図書館の使い方に留まらず, あらゆる教科等の学習で必要とされる情報の収集・選択・分析・処理・表現に関する内容を取り扱う。

2008年に改訂された学習指導要領において, 学校図書館利用指導は, 教科ではなく特別活動の中の学級活動の一つとして扱われているが, 各教科の教科書にも, 利用指導と同内容の学習項目が多くみられる。特に「学び方」と定義されている知識や技能²⁾ (課題の見付け方やつくり方, 目的や意図に応じた情報の集め方や調べ方, 整理・分析の仕方, まとめ方や表現の仕方, 報告や発表・討論の仕方) と共通点が多い。

本研究に先だち, 小学校5-6年生と中学校の教科書に見られる「学び方」に関する記述を分析した結果, 国語と社会を中心に, 利用指導で扱う項目のほとんどが取り上げられていることが分かった³⁾ (本稿では, これを「教科書調査」と称する)。このことから, 利用指導を教科教育のなかで行うことを念頭において, 教科との役割分担について検討する必要があると言える。

しかし, 教科書調査では「学び方」指導の内容や方法にまで踏み込んだ分析ができないため, 学校図書館と教科の専門領域の違いを示すことが難しい。そこで本研究は, 教科のなかで行われる「学び方」指導の内容を知る資料として教師用指導書に着目し, これを利用指導と

比較することによって, 両者の相違点と共通点を明らかにし, 利用指導を教育課程に位置付ける意義を検討することを目的とする。

2. 研究の方法

本研究では, 利用指導と共通する項目が多く扱われている国語と社会に焦点を合わせ, さらに, 2012年度の採択率がもっとも高かった教科書 (国語は光村図書出版, 地理・歴史・公民は東京書籍) に絞って調査を行う。調査の枠組みとして, 学校図書館関係の文献に見られる利用指導の内容を整理・分類して作成した「利用指導の33項目」⁴⁾を用いた。

まず, 「利用指導の33項目」と同じ項目を取り上げている教科書のページについて解説している教師用指導書から, 指導の内容が分かる箇所を抽出し, 取り上げられている知識・技能を整理した。次に, 利用指導の典型例として, 全国学校図書館協議会が作成した利用指導の体系表を用いて, 両者の指導内容を比較した。本稿では, 利用指導の実践事例が多い「図書・資料の探し方」⁵⁾ (文献調査) を取り上げ, 中学校国語に限定して行った調査の結果について述べる。

3. 結果と考察

(1) 文献調査が含まれる単元

光村図書出版が発行する中学校1年生から3年生の国語教科書で, 文献調査を含む単元は8ヶ所である (表1)。この中で生徒が利用する「文献」とは, 図書 (辞書, 百科事典, 統計資料, その他テーマに関する本), 新聞, 雑誌, パンフレットであった。

^{*1}NIWAI, Fumie: 慶應義塾普通部, 青山学院大学大学院 e-mail: fniwai@z8.keio.jp

表1 文献調査を含む単元例

学年	単元名	該当頁	概要
1	言葉に出会うために	14-25	知本を調べ
1	調べたことを報告しよう	170-174	レポートを書く
1	言葉を探検する	206-211	言葉調べ
2	気になる「あの人」を探ろう	70-73	人物調べ
2	立場と根拠を明確にして書こう	172-176	事例・データ収集
3	説得力のある考えを述べよう	32-35	引用の仕方
3	読書生活をデザインしよう	68-71	読む本を探す
3	文章の形態を選んで書こう	128-131	

教師用指導書⁶⁾で、このような「文献」を手するために必要な能力として取り上げられていたのは、「媒体の特性を生かした調べ方を工夫する」「学校図書館で資料を探す」「単行本だけでなく、雑誌や新聞、パンフレットなどを利用する」「図書検索」「テーマに関する資料をインターネットや図書館で探す」「学校図書館や地域の図書館、公共施設…などそれぞれの特徴を理解し、その特徴を生かして情報収集する」であった。

(2) 文献調査に必要な知識・技能の指導

生徒が、前節で示した方法で「文献調査」を行うために必要な知識・技能が、同単元内で、あるいは他の単元で指導されているかどうかを確認した結果、「図書館における本の分類の仕方（日本十進分類法）」「インターネットにおけるAND検索の仕方」「辞書と百科事典の使い方」「目次と索引の使い方」「新聞の特徴」「図書・新聞・雑誌・インターネットの情報の違い」という項目があった（表2）。

表2 文献調査に必要な知識・技能を指導する単元例

学年	単元名	該当頁	概要
1	言葉に出会うために	14-25	図書の分類法
1	言葉に出会うために	14-25	検索キーワード
1	言葉に出会うために	14-25	辞書
1	言葉に出会うために	14-25	百科事典
1	情報コラム①	72	目次と索引
1	情報コラム②	73	新聞の構成
1	学習を広げる	248-285	新聞の比較
2	気になる「あの人」を探ろう	70-73	本・新聞・雑誌 インターネットの比較

(3) 利用指導との比較

以上の結果を、学校図書館が行う利用指導で「文献調査」に必要な知識・技能として取り上げる項目⁷⁾と比較した結果、「図書館における本の分類の仕方」「目次と索引の使い方」「図書・新聞・雑誌・インターネットの情報の違い」

は共通の内容が認められた。一方、利用指導独自の項目としては「図書館の役割」「学校図書館と公共図書館の使い分け」「目録の種類と使い方」「インターネット検索とOPAC（図書館のオンライン目録）検索におけるキーワードの違い」「書誌を使った資料の探し方」「参考図書の種類と特徴」「雑誌記事や新聞記事の探し方」があった。また、「辞書の使い方」と「新聞の構成や特徴」は、利用指導よりも国語のほうが詳細に取り上げていた。

4. まとめ

中学校の国語教科書における「文献調査」に焦点を合わせて、教師用指導書と学校図書館利用指導を比較した結果、両者が取り上げる内容に共通点と相違点があった。国語では各メディアの特性や文献（辞書・図鑑）の使い方に時間が割かれる一方、資料そのものにアクセスする方法については不十分な記述しかなかった。また、「時間内には情報を集めきることができないと思われるので、…必要な情報や資料を収集しておくよう指示する」など、情報検索を生徒の自主性に任せる傾向が読み取れた。

このことから、利用指導を教科のなかで行うことによって、教育効果を高める可能性を指摘することができる。今後、「文献調査」以外の項目や他教科で取り上げられている項目に分析対象を広げて検討する必要がある。

<参考文献>

1. 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編，図書館情報学用語辞典第3版，丸善，2007
2. 文部科学省（2008），学習指導要領解説 総合的な学習の時間編，〈http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/01/05/1234912_013.pdf〉
3. 庭井史絵（2014），教科教育のなかで行われる「図書館利用指導」の状況，教育情報研究，Vol. 29，No. 3-4，p. 3-14
4. 前掲3)
5. 全国SLA研究調査（2011），2009年度学校図書館調査報告（特集'09子どもの読書と学校図書館の現状），学校図書館，No. 709，p. 34-52
6. 中学校国語学習指導書1（同2と同3），光村図書出版，2012
7. 全国学校図書館協議会編，情報を学習につなぐ情報・メディアを活用する学び方の指導体系表解説，社団法人全国学校図書館協議会，2008